

株式会社ギフトパッド

所在地 大阪府大阪市西区南堀江3丁目9-13
堀江家具 WEST ビルディング 4F
URL <https://giftpad.co.jp/>

企業・自治体を支える DX パートナー

ギフトパッドは、カスタマイズ可能なプラットフォームを通じて、ノベルティ・ギフト・クーポンをDX化。業務効率化、在庫リスク低減に寄与するほか、メーカー・生産者にとって小売・EC以外の販路拡大、認知向上にもつながるなど、企業の経営課題解決、地域活性化に貢献します。

会社概要

◆ 事業概要

株式会社ギフトパッドは、企業や自治体の課題解決をサポートするソリューション企業。展開するサービスは幅広く、顧客のニーズに寄り添いながら「三方よし」の理念を大切にしている。

代表的なサービスのひとつは「3X's ticket (サンクスチケット)」だ。3X's ticket は、カタログギフトをデジタル化したサービスで、メールやカードで贈られた URL を読み取ることで商品を選べる仕組み。結婚式の引き出物として始まったサービスだが、現在は株主優待や販促ノベルティなどへ活用の幅が広がっている。また、自治体向けサービスの「みやげっと」は、LINE や SNS で URL を送ることで、住所を知らない相手にも土産を贈れるとして需要が高まっている。

そのほかPremium Coupon (プレミアムクーポン) や region PAY (リージョンペイ) といった観光支援サービスは地域活性化のプラットフォームに。クーポン利用者の利便性だけでなく、クーポンを受け取る施設側も金券管理の必要がなくなるといったメリットがあり、さまざまな企業でギフトパッドのサービスが導入されている。

【地域通貨プラットフォーム region PAY・みやげっと】



特徴・強み

◆ ビジネスモデルの特徴と企業の強み

事業は、販売促進・株主や社内などのインナー向け・地域事業の3つの軸でDX施策プラットフォームを展開している。事業展開にあたり最も大切にしているのは顧客へのヒアリングだ。

一般的なIT企業の場合は、売りたいサービスを開発した後に営業するという流れが多い。しかし、ギフトパッドは価格で勝負するのではなく、まずは企業や自治体実際に会って、ニーズや要望をヒアリングすることを徹底している。

サービスのシステムや仕組み自体は誰でも同じものを作れてしまう。そのため最終的に競合他社との差を生み出すのは営業力。

汎用性の高いソリューションを幅広く展開していることに加えて、顧客のニーズを酌み取るヒアリング力の高さが、業界の最前線を歩み続けるための強みとなっている。「スタンプラリーやレシート応募キャンペーンをやりたい」「自社アプリを使ったサービスをやりたい」といった、顧客の要望に合わせて作り続けてきたギフトパッドのサービスは、上場企業から中小企業、政府や自治体の施策など、業種を問わず、数々のDX化をサポートしている。

◆ 強み・アピールポイント

現在最も力を入れているのは、全国旅行支援でも採択されている「region PAY」だ。region PAYとは、エリアを完全に縛って使える地域通貨のことで、東京都の「ただいま東京」や大阪府の「いらっしやいキャンペーン」といった給付金事業などで活用されている。

地域通貨を提供する企業はほかにもあるが、他社と

異なるのはアナログに対応している点。「region PAY」は電子版と紙面版の両方で使用できるという特徴があり、非スマホユーザーであっても使用可能だ。時代はデジタル社会といっても、すぐに国民全員が100%対応できるわけではない。

とくに高齢者には「紙じゃないと嫌だ」「個人情報をいいたくない」などデジタル化に抵抗を持つ人も多いが、アナログに対応しようとする企業は少数。

そのため「紙のほうがよい」というユーザーのニーズも酌み取りながら、デジタルとアナログの両軸を持っている点が強みとなっている。「region PAY」は今後、一般企業においても活用の幅を広げ、商店街などの小さなエリアごとの活性化にもつなげていく。

【地域で取組む DX スーベニア みやげっと】



起業に至った経緯

◆ 事業にける想い

当初は結婚式の引き出物に特化したサービスからスタート。「引き出物として渡される紙のカタログギフトは重いしエコじゃない」というブライダルプランナーからの相談を受けて起業したのがきっかけだった。「3X's ticket」から始まり、その後さまざまなサービスが誕生したが、そのなかで大切にしていた想いは「みんながハッピーに」。消費者はもちろんのこと、連携パートナーも含めて win-win な関係となるよう、最終的なコストが発生するまで企業から掲載費をもらわないといったスタイルで「三方よし」を実現している。

将来展望

◆ 今後の事業展開

今後もプラットフォームを軸に、自治体や企業をつないでいくというソリューションにも取り組んでいきたいと考えている。

また、さらに先を見据えているのはスマートシティ構想だ。スマートシティ構想は、デジタル化やウェブ化されたひとつの小さな街を作るという考え方ではなく、県や国といった単位で、もっと大きなプラットフォームで考え、全体的にデータ化することが重要だと考えている。

ギフトパッドのプラットフォームと自治体がつながることによって、「3X's ticket」や、「みやげっと」の仕組みにデータベースを連携し、地域の県産品を企業の案件で使ってもらうことを想定している。

日本は世界のなかでもトップクラスにギフト文化が醸成されている国。国や自治体とデータ連携しながら、観光促進や県産品の外販につなげると同時に、ギフトパッドのプラットフォームを世界でも活用しながら、販路を拡大したいと考えている。

【株式会社ギフトパッド 代表取締役 園田 幸央氏】

